インターネット市民塾のＩＤコーステンプレート作成に向けたコース分析
Course Analysis for ID Course Template of Citizen e-Learning "Internet Shiminjuku"

村嶋 亮一　中野 裕司　根本 淳子　北村 士朗　鈴木 克明
Ryoichi MURASHIMA, Hiroshi NAKANO, Junko NEMOTO, Shiro KITAMURA, Katsuaki SUZUKI
熊本大学 大学院社会文化科学研究科 教授システム学専攻
Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University
Email: rmurashima@st.gsis.kumamoto-u.ac.jp

あらまし：e ラーニングを活用した市民参加型の講座におけるレッスン計画のデザインを支援するＩＤコーステンプレートの開発に向けて、市民参加型講座（コース）の分類と、その学習領域の整理、および各分類における学習課題の分析と教授系列の設計を行った結果について報告する。

キーワード：生涯学習, インストラクショナルデザイン, インターネット市民塾, e ラーニング

1. はじめに

市民参加型講座を中心とする生涯学習においては、今なお、多くの講座が教室での講師主導のインストラクションを中心に構成されているが、今後は、時間や場所の制約の少ない e ラーニングが重要な役割を果たすと思われる。講師主導のインストラクションであれば、現場での柔軟で即興的な指導も可能であり、事前のコース設計に関してそれほど厳密性が要求されないが、学習者のペースで進められる e ラーニングによるオンライン学習において、学習効果の高いコースを設計、開発することは、教育の専門家ではない一般の市民講師にとって依然として難しく、当該分野における e ラーニングの普及を阻害する要因の 1 つと考えられる。

そこで我々は、市民参加型の講座（コース）において、一般の市民講師が、手軽に、ID(Instructional Design)に基づいた効果的で効率的なオンライン学習環境を実現できるように、e ラーニングコンテンツの組み立て方や講座のまとめ方等を簡単に整理できる「ID コーステンプレート」を開発している。

本稿では、この「ID コーステンプレート」の設計に不可欠な、市民参加型講座の分類と、その学習領域の整理、および各分類における学習課題の分析と教授系列の設計を行った結果について報告する。

2. 市民参加型講座とは

市民参加型講座とは、「一般市民が、講座の学習プログラムの企画・立案・運営に主体的に参加しながら、学習を継続的に展開する相互学習の機会」である。市民参加や協働といった考え方は、今日、地方自治体を中心に、まちづくりや環境政策等の分野で広がりを見せつつあるが、生涯学習の分野においても、一般市民や市民団体等が、市民参加型講座に積極的に取り組むケースが増えている。

従来、生涯学習の分野では、自治体等が運営主体となり、社会人を中心とする幅広い年代層に、趣味、教養、文化、芸術、スポーツ、生き方等をテーマにした講座が数多く開催されてきたが、近年、インターネットによる学習環境の多様化や学習機会の拡大等により、一般市民が講座の担い手となり、オンラインで市民が相互に学びあう環境が増えている。

一例として、富山を起点に、草の根的に全国に拡大しつつある「インターネット市民塾」では、民間の非営利団体を核として、多くの一般市民が生涯学習コミュニティを形成し、働き盛りの人たちからシニアまで、幅広い年齢層の人々が生涯学習の機会を通じた交流を行っている。

3. 市民参加型講座の分類

国内の市民参加型の生涯学習事例を無作為に調査し、学習者の参加目的を中心とした切り口で類型化することで、次の 4 つの型に講座を分類した。

- 同じ趣味や特技を持つ仲間と出会い、興味や関心を共有できる場を提供するもの（コミュニティ型）
- 特定の課題を取り上げて、みんなで気軽に参加し、考え学びあう場を提供するもの（課題解決型）
- 人生を豊かにするための知識や技術を修得するための場を提供するもの（ライフアップ型）
- 自身の知識や技能を高め、社会で活かせる場を広げるもの（ボランティア型）

コミュニティ型では、同じ趣味や特技を持つ参加者が相互に交流する機会が重視され、コーディネータを中心とした学習者相互の情報交換が学びの中心となる。例：カメラを持って外に出よう（くまもとインターネット市民塾）等。

課題解決型では、「くらし」「地域社会」「生き方」「働く女性」「子育て」「老後」といった、多くの人々に共通する社会的な課題を取り上げ、座学や実技、ディスカッション等を通じて、課題解決に向けた前向きな選択肢を提供する。例：再チャレンジ支援 e ラーニング（富山インターネット市民塾）等。

ライフアップ型では、学習者の興味、関心のある事柄に関して、より深く学び、考え、身に着けるための方法や手段を主催者が提示する。従来からの（市民参加型ではない）生涯学習のオーソドックス

なスタイルである。例：リナックス入門（くまもとインターネット市民塾）等。

ボランティア型では、社会貢献活動の中で、自らの知識や技能を活かしながら、その強化を図ることを目指した参加・体験型の学習スタイルをその特徴とする。例：熊本城観光ボランティアガイド（熊本市中央公民館青少年ボランティア講座）等。

4. 市民参加型講座におけるコース分析

4.1 学習領域の分類

市民参加型講座において学習効果の高いコースを設計、開発するための ID コーステンプレートを開発するには、指導や評価の目標を体系的、明確的な形で設定するための枠組みが必要となる。そこで、本研究では、ブルーム等による教育目標の分類学（タキソノミー）をベースに、梶田がわが国の社会・文化的な背景を考慮してまとめた内面化プロセス（仏典に見られる「開」「示」「悟」「入」）による分類法[1] を採用した。このフレームワークをもとに、市民参加型講座におけるコースの分類パターンをマッピングしたものを表 1 に示す。

		学習領域				主要な目標タイプ
		知	情	意	技	
目標次元	開	C	C	C		体験
	示	L	L	P, V	L	達成
	悟		L	P, V		体験・向上
	入			V		体験・向上

C:コミュニティ型, P:課題解決型, L:ライフアップ型, V:ボランティア型

表 1 市民参加型講座における学習領域と内面化プロセスの次元

4.2 学習到達目標の定義

梶田は、ガニェによる行動主義的な学習観に基づく目標記述の考え方の問題点を踏まえ、具体的な学習到達目標を「達成目標」「向上目標」「体験目標」の 3 種に分類した[1] 。これに基づき、市民参加型講座の型ごとに学習目標（生涯目標）を以下のように分類した。

(a)コミュニティ型

・同じ趣味や特技を持つ仲間と出会い、興味や関心を共有できる（情意領域→体験目標）

(b)課題解決型

・特定の課題に関して、自分に適した解決方法を選択することができる（情意領域→向上目標）

(c)ライフアップ型

・自身の興味、関心のある事柄に関して、より深く学び、考えるための方法や手段を選択することができる（認知領域→向上目標・体験目標）

・文学や芸術等に触れ、親しむことで、豊かな感性を身につける（情意領域→体験目標）

・生活に役立つ身近な技術や知識を習得する。（認知領域→達成目標）

・楽しみながらスポーツに親しみ、健康的な生活を送る（精神運動領域→向上目標、体験目標）

(d)ボランティア型

・自身の知識や技能を社会で生かし、他人の役に立つことができる（情意領域→向上目標）

・ボランティア活動を通じて、自身の知識や技能を社会で活かすことができる（情意領域→向上目標）

・自身の知識や技能を強化するための手段として、ボランティア活動に参加する（情意領域→向上目標）

4.3 学習課題の分析と教授系列の設計

Briggs and Wager（1981）が、様々な性質をもつ学習課題を含んだ学習コンテンツを統合する枠組みとして提唱する「教授カリキュラムマップ」[2]（Instructional Curriculum Map: ICM）を使って、市民参加型講座における学習課題の分析と教授系列の設計を行う（ICM 図は紙面の都合から講演で紹介）。ただし、ICM はガニェの知的技能領域の構造分析手法である学習階層分析を骨組みとして、関連する他の領域の目標との関係を図示するものであるため、ここでは、ブルームや梶田による学習目標の分類を取り入れた独自のマップの作成を試みた。

4.4 指導方略

市民参加型講座の学習領域と学習到達目標の定義をもとに、梶田による、「開・示・悟・入と指導方法・活用例」[1] を参考にしながら、市民参加型講座の型ごとに e ラーニングの適用も含めた具体的な指導方略を考えた。

一例として、コミュニティ型においては、テーマに関する経験の発表、グループでの体験、またその体験に関するディスカッション等が挙げられる。

5. まとめ

e ラーニングを活用した市民参加型の講座における教授系列とレッスン計画のデザインを支援する ID コーステンプレートの開発に向けて、市民参加型講座（コース）の分類と、その学習領域の整理、および各分類ごとの学習課題の分析と教授系列の設計を行った。これらの知見をもとに、今後 ID コーステンプレートを試作する。また、Moodle を使った実装にも取り組みたい。

参考文献

(1) 梶田叡一：“教育評価”，有斐閣双書，pp.111-146（1983）

(2) Gagné,R.M., Wager,W.W., Golas,K.C., Keller,J.M. 鈴木克明・岩崎信（監訳）：インストラクショナルデザインの原理，北大路書房（2007）